No. 1321

世界の政治・経済と日本の役割

—日米首脳会談—

五月の風さわやかなワシントン。5月2日米国を公式訪問中の大平首相が日米首脳会談のためホワイトハウスを訪れた。今回の大平首相の訪米は日米両国の関係の緊密化だけでなく、アジア、中東など世界の平和と安定のために両国が協力し、それぞれの責任と役割を果し合うといういわゆる「実り豊かな協力関係」をより一層深めようというもの。大平首相にとっては政枢発足以来はじめての外遊、園田外相、安川対外経済関係政府代表らも同行した。首脳会談に先立ち行われた歓迎の式典であいさつするカーター米大統領。大平首相も「あたたかい観迎を感謝する。こうして大統領とお目にかかりお互いの親交を深める機会をもつことをこころまちにしていた」とあいさつ。このあとふたりは閣議室で行われる首脳会談に望んだ。

午前と午后の2回にわたる会談ではこれまでにない幅広い議題について卒直な意見が交換され、経済関係を中心とする共同声明が発表された。首脳会談のあと大平首相と園田外相は「日米科学技術協力協定」の調印式のため米国国務省を訪問。国務省ではバンス国務長官をはじめマンスフィールド駐日大使、シュレジンジャーエネルギー長官が一行を迎えた。調印は園田外相とシュレジンジャーエネルギー長官の間で取り交わされた。この協定は21世紀へ向けて石油に代わる新エネルギーを日米共同で研究開発しようというもので両国の懸案事項のひとつであった。大平首相が訪米日程を消化している間、夫人の志げ子さんはカーター米大統領夫人に招かれ、ワシントン郊外にある日本庭園を訪問。ここでは日本のトップモデルによる夏のファッションが紹介された。公式行事で忙しかった夫人にはこの華かやな催しは楽しいひとときとなった。

翌5月3日大平首相はナショナル・プレスで外国記者団を前に英語で演説。「世界経済の安定と拡大のために果すべき責任」を実行する決意を表明した。今回の首脳会談を中心とする訪米は1980年代に向けて日米がゆるぎないパートナーシップを保っていくことが再確認され、日本が世界の政治経済に果たすべき役割を内外に確認させた。